

政治・経済

【解答】

I

解答1	解答2	解答3	解答4
d 日米地位協定	b 砂川	b ブライス	e 3
解答5	解答6	解答7	解答8
c コンツェルン	d M&A	c 第一次所得収支	f 金融収支

II

解答A	解答B	解答C
憲法問題調査	松本	ゴルバチョフ
解答D	解答E	解答F
中距離核戦力（INF）全廃	累進課税	直間
解答G	解答H	
インドネシア	南米南部共同	

III

1つ目は、資源の最適配分である。これは、政府が市場メカニズムによっては供給されない部分に、資源を適切に配分するというものである。公共財の供給などがある。また、2つ目は、所得の再分配で、政府は高所得者から低所得者に所得を移転するという政策がある。さらに、3つ目は、景気調整機能で、景気を安定化させ、誘導する機能を持つもので、財政政策や金融政策によって景気抑制や景気刺激をはかるフィスカルポリシーがある。

【学習アドバイス】

本学の入試は、例年選択科目の中から2科目を選択して受験する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となるので、各科目にかけるバランスにもよるが、平均的には50分程度が解答時間となる。本年度の政治・経済の問題構成は、全体で大問3題のうち、大問Ⅰが空欄補充問題（記号選択式8問）、大問Ⅱも空欄補充問題（語句記述式8問）、大問Ⅲが200字程度の説明論述式問題（1問）となっている。空欄補充問題は政治・経済両分野の幅広いテーマから出題されている。説明論述式問題は、昨年度と同様に、経済分野から出題されている。

全体としては基本事項を問う問題で構成されており、教科書レベルの知識を問う標準的な出題である。以下、大問ごとに内容を概観しつつ、今後の学習上必要な点をアドバイスしていきたい。

大問Ⅰの記号選択式の空欄補充問題は、様々な分野をテーマとする問題文が4つ用意されている。各問題文にそれぞれ2つの空欄があり、6つの選択肢から2つの正答となる選択肢を選び出す形式を採っている。問題文の内容は問1と問2が政治分野（安保条約、地方自治、各2問ずつ）、問3と問4が経済分野（資本の集中、国際収支、各2問ずつ）となっている。

大問Ⅱの語句記述式の空欄補充問題は、様々な分野をテーマとする問題文が4つ用意されており、各問題文にそれぞれ2つの空欄がある。問題文の内容は（1）と（2）が政治分野（日本国憲法の制定過程、ゴルバチョフ政権の政策）、（3）と（4）が経済分野（租税、地域経済統合）となっている。

大問Ⅰ、Ⅱとも基本的な知識を問う問題であるので、取りこぼすことなく、全問完答を目指してもらいたい。そのためには、まず、教科書を繰り返し熟読し、基本的な知識の習得に努めることが必要である。その際、意味の分からない用語が出てきた場合には、用語集で必ず意味を確認するようにしてほしい。なお、本年度は出題がなかったが、過去の問題では具体的な数値を問う問題が出題されたこともあるので、最新版の資料集を手元に置いておくとよいだろう。知識のインプットが済んだら、問題集を活用して、アウトプットを行ってもらいたい。具体的には、通学時などの細切れの時間に一問一答形式の問題集で知識の確認をしつつ、私立大学の問題を収録した問題集を1～2冊仕上げれば十分である。

大問Ⅲは入試頻出テーマの1つである財政の3つの機能を200字程度で説明する問題である。一般に、論述式の問題は、苦手とする受験生が多く、点差が開きがちである。本学の問題においても、大問Ⅲを攻略できるかどうか合否の鍵を握っていると言える。本学の論述式問題は、教科書の掲載頻度が高い重要な用語を説明するタイプと、時事的な話題について論じるタイプの2つに大別することができる。前者については、知識のインプットを終えた後に、『政治・経済 計算&論述特訓問題集』（河合出版）などを使用して、過去に出題された様々な論述問題にチャレンジしてもらいたい。後者については、日頃の学習の中で、新聞等で頻繁に取り上げられている問題や、資料集の巻頭特集や事例研究で扱われているテーマについて、現状や問題の背景、対策などを200字程度でまとめておくとよい。その上で、できれば学校や塾・予備校の先生に添削をしてもらい、記述内容に過不足がないかどうか、チェックしてもらおうとよいだろう。

なお、政治・経済という教科は時事的な話題に最も敏感な教科であるので、日頃から新聞に目を通す習慣をつけておくとよいだろう。また、論述式問題対策としては、時事的な話題の解説と関連用語を見開き2ページでまとめている『朝日キーワード』（朝日新聞出版）の併用を薦める。

最後に、本学の問題は難問・奇問の類は全くないので、地道に勉強を続けていけば必ず高得点をあげることが可能である。最後まであきらめずに勉強を続け、合格を勝ち取ってもらいたい。